

学校法人京都成安学園

建学の精神「成安・誠と熱・実践教育」

京都成安学園の歴史は、大正9(1920)年7月17日、学祖 瀬尾チカが成安裁縫学校の設立を京都府知事から認可されたときから始まります。

京都成安学園では、学園名だけでなく成安裁縫学校以来これまで設置してきたすべての学校名に成安という言葉が冠してきました。設立当時は「心身ノ鍛錬、誠実勤勉ノ美德、経済的ニ独立シ得ル実力ノ養成ニ努メ、内ニ在リテハ則チ家庭ノ主婦トシテ、良妻トナリ賢母トナリテ、家ヲ治メテソノ繁栄ヲ計リ、出デテハ則チ国家ノ良民トシテ、国運ノ進展ニ寄与シ得ル新時代ノ婦人ヲ養成スル」ことを目的としていたことから、それらを要約し「成安」と名付けました。時代の変遷に伴い、現在では「成安」について「成とは成し遂げること。安とは安寧であること。つまり成安とは人の和を大切に、一人ひとりが自己の使命を追求し、全うし続けることを通じて、心安らぐ平和な社会をつくることに貢献するという意味である。」と解釈しています。



学祖 瀬尾チカ

学祖は、学習と実行の上には、事の大小にかかわらず、誠と熱とをもって終始するよう毎日の生活を鞭撻しており、これが学園の指導精神であること、そして、正しい信念からほとばしり出る純真な誠とすべてのものを生かし得る熱をもって生徒に対して範を示さなければ、学校教育において「成安」という言葉が意味するところの目的を達することはできないと説いています。学祖の人生訓でもある「誠と熱」、誠実さと熱意と置き換えても良いこの言葉は、学園の建学の精神であるとともに校訓として、学園に関わる全ての者の歩むべき道筋を照らしています。

設立当時の成安裁縫学校の校則第1条には「本校ハ時代ノ進歩ニ伴ヒ最モ新ラシキ和洋裁縫及ビ実用的手芸ノ一般ヲ教授シ併テ自活学習ノ便ヲ与エ兼テ婦徳涵養ニ資スルヲ以テ目的トス」と謳われており、女性に自活できる能力を修得させることが学校設立の趣旨でありました。こうした女性の社会的・経済的地位を向上しようとする先進的な取り組みは、瀬尾チカの体験に裏付けられた確固たる信念に基づくものでした。以来、社会で役立つ知識や技能を修得させる教育、すなわち「実践教育」は本学園における学校づくりの基本的な考え方となっています。



成安技芸女学校 吉田下阿達町校舎
(大正10(1921)年)



成安技芸女学校の制服

設置する学校

成安造形大学

滋賀県大津市仰木の里東 4-3-1

基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」／学部・学科 芸術学部芸術学科／開設 平成5年
学長 小嵯 善通／定員 900人／現員 1,047人（令和8年5月1日現在）

成安幼稚園

京都府向日市寺戸町八反田 32-1

基本理念「豊かな創造力と健やかな体、たくましい自立心を育てる」／開設 昭和 50 年

園長 藤田 朋美／定員 115 人／現員 93 人（令和 8 年 5 月 1 日現在）

成安幼稚園は、昭和 4(1929)年 7 月、昭和天皇御大典建造物大嘗宮の一部 135 坪の下賜を受けて、京都市上京区の相国寺校地内に「記念幼稚園」の設立を申請し、昭和 5(1930)年 3 月、京都府知事の認可を受けて発足。その後、昭和 50(1975)年 4 月向日市に「成安向日幼稚園」を開設、翌年に相国寺校地の「成安幼稚園」を閉園し「成安向日幼稚園」の名称を「成安幼稚園」に改称（実質的には移転）して、成安幼稚園の歴史を引き継ぎました。

学園沿革

- 1920 年（大正 09 年）創設者瀬尾チカ 京都市に成安裁縫学校創立
- 1921 年（大正 10 年）京都成安技芸女学校と改称
- 1923 年（大正 12 年）京都成安女子学院と改称
- 1930 年（昭和 05 年）成安幼稚園開設
- 1932 年（昭和 07 年）財団法人京都成安女子学園設立
- 1940 年（昭和 15 年）京都成安高等女学校設立
- 1946 年（昭和 21 年）京都成安女子専門学校設立
- 1947 年（昭和 22 年）成安女子中学校開設
- 1948 年（昭和 23 年）京都成安高等学校開設
- 1950 年（昭和 25 年）成安女子短期大学（被服科）開学
成安女子短期大学、成安女子高等学校、成安女子中学校に改称
- 1951 年（昭和 26 年）学校法人京都成安女子学園に改組
- 1958 年（昭和 33 年）成安女子短期大学に意匠科増設
- 1975 年（昭和 50 年）成安向日幼稚園設立
- 1976 年（昭和 51 年）成安幼稚園を閉園、成安向日幼稚園を成安幼稚園と改称
- 1987 年（昭和 62 年）成安女子短期大学長岡京新キャンパス完成、移転開学
- 1991 年（平成 03 年）成安女子中学校を再開
- 1993 年（平成 05 年）学校法人名を京都成安学園に改称、成安造形大学開学
成安造形大学初代学長に井筒與兵衛就任、成安造形短期大学に改称
- 1996 年（平成 08 年）成安造形大学第 2 代学長に田邊徹就任
- 1997 年（平成 09 年）成安造形大学第 1 期生卒業
- 2000 年（平成 12 年）京都成安中学校・京都成安高等学校に改称、成安造形大学第 3 代学長に木村至宏就任
- 2002 年（平成 14 年）成安造形短期大学の設置者変更
- 2007 年（平成 19 年）京都成安中学校、京都成安高等学校の設置者変更
- 2008 年（平成 20 年）成安造形大学附属近江学研究所を開設
- 2009 年（平成 21 年）成安造形大学第 4 代学長に牛尾郁夫就任
- 2010 年（平成 22 年）成安造形大学芸術学部芸術学科に改組
学園創立 90 周年記念事業で成安造形大学【キャンパスが美術館】を整備・開館
- 2013 年（平成 25 年）成安造形大学開学 20 周年事業で食堂棟をリニューアル
- 2015 年（平成 27 年）成安造形大学第 5 代学長に岡田修二就任
- 2016 年（平成 28 年）成安造形大学学生専用アパートメント「YOHAKU」A 棟竣工
- 2017 年（平成 29 年）成安造形大学造形学部デザイン科、造形美術科を廃止、「YOHAKU」B 棟竣工
- 2018 年（平成 30 年）「YOHAKU」C 棟竣工
- 2020 年（令和 02 年）学校法人京都成安学園創立 100 周年・成安幼稚園開園 90 周年
- 2021 年（令和 03 年）成安造形大学第 6 代学長に小峯善通就任
未来社会デザイン共創機構を開設
- 2022 年（令和 04 年）「YOHAKU」II 竣工
- 2023 年（令和 05 年）成安造形大学 開学 30 周年

京都成安学園のあゆみ

燃ゆるが如き向学心

学校法人京都成安学園の学祖 瀬尾チカは、明治 20（1887）年 12 月 30 日、九州の西北、五島列島の北端に位置する小値賀島に、藤松家の二女として生を受けた。地元の尋常高等小学校を卒業した学祖は、柳川市の杉森女紅会（現・杉森高等学校）、佐世保裁縫女学校（現・久田学園佐世保女子高等学校）に進学。その後上京し、共立女子職業学校（現・共立女子大学）では、創設者のひとりである鳩山春子や俳人正岡子規の妹の正岡律などから教えを受け、同校卒業後は、当時、洋裁教育の先駆けであった和洋裁縫女学校（現・和洋女子大学）でも勉学に励んだ。女子の教育に消極的な風潮で満ち溢れていたこの時代、無断であったと伝えられているこの上京は、学祖の 20 幾歳での燃ゆるが如き向学心がいかほどであったかを物語っている。そして、これらの学校は、いずれも女性の手によって創設されたものであった。帰郷後、学祖は瀬尾幸吉氏と結婚し瀬尾チカとなった。24 歳の頃であった。しかしながら、ほどなく夫は急逝、学祖は幼な子を抱え、四国 徳島県に渡り教鞭を取った。

建学の地「京都」－ 成安裁縫学校設立

1 年後に教壇を降りた学祖は建学の地「京都」に移り住み、女性に対して自活学習の機会を与えるため、京都市左京区聖護院西町の借家で「和洋裁縫手芸学院・京都シンガーミシン会社女子実業教習所」という名の私塾を開設した。大正 7（1918）年、30 歳の時であった。その 2 年後の大正 9（1920）年 6 月 21 日、私塾の理念や教育内容が私立学校の要件を備えていたことから京都府の勸奨を受け、成安裁縫学校設立認可願を提出、同年 7 月 17 日に認可された。私立学校令による学校として認可されたもので、学園設立の礎石を据えた画期的な出来事であった。ここに、その後 100 年以上にわたる歴史を刻むこととなる京都成安学園が誕生したのである。成安裁縫学校の生徒数は僅か 31 人であったと伝えられている。

百万遍校舎から相国寺校舎へ

施設の充実を条件として成安裁縫学校が認可・設立されて半年後には、左京区吉田下阿達町の仮校舎に移転し、校名も成安技芸女学校に改称。さらにその翌年には、左京区北白川に百万遍校舎を建設、校名を京都成安女子学院に改称した。このころ、校歌（学園歌）と校章ができていた。この校名変更からは、裁縫の学校から普通教育を行う女学校となること、また、京都という地名を冠したことからは、地方の学生をも収容しようとする規模の拡張への学祖の決意が表れている。ただ、この校舎も次第に手狭となりこれ以上の拡張が困難であったことから、昭和 2（1927）年、上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町の相国寺校舎に移転し、その後の飛躍的な学園の発展の礎となるのである。

終戦 － 総合学園への道

学園創立から遅れること 10 年、成安幼稚園は、昭和 4（1929）年 7 月、昭和天皇御大典建造物大嘗宮の一部の下賜を受けて記念幼稚園の設立を申請、昭和 5（1930）年に開園した。昭和 7（1932）年、申請していた財団法人京都成安女子学園が鳩山一郎文部大臣から認可され、その後学校法人化するまでの間、学園の経営主体であった。鳩山大臣の母春子は、共立女子職業学校当時の恩師であったことは何かのご縁であったのだろうか。

昭和 20（1945）年、長く続いた戦争が終わった。新日本建設のための女性の役割に思いを致した学祖は、建学の精神であった独立し得る女性の養成、女性の地位向上という課題に取り組み、京都成安中学校、京都成安高等学校、成安造形短期大学の前身となる学校を相次いで開設、総合学園へと発展していったのである。そして昭和 26（1951）年、学校法人京都成安女子学園を設立した。学園創立 32 年目、学祖 63 歳の春であった。

学祖の志を受け継いだ学園

学校法人化の翌年に校舎の約半分を焼失する火災に見舞われ、その復興に奔走していた学祖は、昭和 31（1956）年 11 月 20 日、68 歳で急逝。鳩山一郎内閣総理大臣から女子教育に生涯を捧げた学祖を讃える弔辞が送られた。

学祖亡き後の学園は、その歩みを止めることなく発展の道を歩み続け、短期大学では関西以西の女子短期大学で初めてとなる意匠科を設置、高等学校も多くの生徒が入学するなど拡充を続け、また、昭和 55（1980）年にはバレーボール部が国体で優勝し三冠を達成してその名を全国に轟かせた。

時代は流れ平成となり、平成 5（1993）年に学園の悲願であった四年制大学である成安造形大学を設置したが、一方で、平成 14（2002）年の短期大学、平成 19（2007）年の中学校、高等学校の設置者変更というかつて経験したことのない激変が学園を襲った。誠に無念極まりない出来事であったが、この 3 校の歴史と教育研究の蓄積を成安造形大学と成安幼稚園が継承、学祖の志を連綿として受け継いで、学園は創立 100 年を超えてその歴史を刻み続けている（文中敬称略）